

米国で発見 「神奈川台場の着色写真」

開港資料館で
きょうから公開

幕末に勝海舟が設計し、現在の横浜市神奈川区に1860年に築かれた砲台「神奈川台場」の写



神奈川台場 横浜が開港した1859年に工事が始まり、翌年に完成した。14門の大砲が置かれており、諸外国の大統領や国王の誕生日に祝砲を発射するなど、外交儀礼上の施設だった。

真に、明治時代の絵師が色をつけた「着色写真」が、10日から横浜市中区の横浜開港資料館で公開される。写真(山本博士氏所蔵)。

同館によると、神奈川台場の白黒写真はこれまでも知られているが、着色写真は珍しいという。

この写真は同市神奈川区に住む洋菓子製造販売業山本博士さん(40)が昨年末、インターネットの海外オークションサイトで発見し、米国の骨董屋から10000円相当の米ドルで購入した。

大きさは横約14センチ、縦約10センチで、全体的に色あせているが、海が薄い青色、家が茶色など、当時の姿が浮かび上がっている。

山本さんは「市内の古い史跡を大勢の人に知ってほしい」と、写真を同館に寄託し、同館は新資料として10月23日に展示することにした。

同館は老朽化した空調設備を入れ替えるため約3か月間全館休館しており、10日から常設展示室が再開されるのを記念し、23日まで入館料を無料にする。